



北高夢ロード通信

第 18 号(2026.3)

夢ロード 2027.3 末解散：総会で決定へ

会長 波多野宏之

昨年来予告しております本会の解散について、いよいよこの4月の総会で決定することになりました。役員の若返りが期待できないことが第一の要因、活動拠点として借り受けていた＜ギャラリー夢ロード＞が使用不可能になることが第二の要因です。ただし、北高夢ロード実行委員会という会員組織はなくなっても、下関北高は存続しており、活気を失いつつある地域は残っているのであり、可能な形で活動の継承を図ってまいります。

解散後の 2027 年4月以降への活動の継承については、役員間、会員間、地域の方、学校関係者とも機会を得るごとに話しており、この2月には、下関北高校同窓会とも協議を行い、同窓会が従来以上に下関北高への支援に向けて活動されるよう要請しているところです。

ここで、解散によって従来の活動が廃止となるか、何らかの形で継承されるか、2月の役員会で確認した方向性の概略を示しておきます。

■通学路における雨傘の貸出

＜アートの本棚＞を中心に地域の旧会員が担当して継続します。

■＜ギャラリー夢ロード＞

廃止に伴い、展示会は原則開催せず、北高成果展も終了します。（ただし、豊北生涯学習センターの「北高展」は継続されると思われます。）

＜音楽とお話のタベ＞は、旧会員が担当し、会場を他に移して継続する方向です。

■＜アートの本棚＞

現状を継続し、図書の閲覧・貸出、読書会「カフェ・リーブル」、「映像資料で学ぶ会」、市立図書館の団体貸出登録団体としての活動、読書週間＜アートの本棚＞北高図書室展示、＜先輩の本棚＞（卒業生著作の寄贈仲介）は継続します。

■栗野川流域ホテル観察会と北高地域探究授業（環境・自然）の支援

終了となります。授業支援については、要請あればテーマにより実施可能。同窓会の項参照。

■やまぐち応援寄付金

これまで県外在住者に冊子を送付してきましたが、以後は、下記ホームページでの広報となります。

■会報とホームページ

会報は発行しません。ホームページは、これまでの活動のアーカイブとしての意義がありますので、＜アートの本棚＞で継承し、活動報告も随時掲載する方向を考えています。

■下関北高同窓会による活動の継承

下関北高新入生祝意幕の掲示は、従来、同窓会と本会が連携して実施してきましたが、今後、同窓会が主体となって実施します。

「ようこそ先輩」と銘打った、卒業生による講演会等は、同窓会が主体となって実施されるよう要請中です。

探究授業等の支援についても、第一義的に同窓会が窓口となって講師紹介などを行うよう要請中です。

北高の魅力増進について、本会ではこれまで公開討論会などの集会を開催してきましたが、こうした面での同窓会の役割を期待しています。相撲部の支援は、その一例です。

本会の多くの会員が北高同窓会会員でもあります。今後とも、同窓会に協力しながら、下関北高の発展に寄与できればと考えています。

本誌 p.7 の報告にありますように、下関北高校に関しては、2028 年度からの普通科改革（未来デザイン科（仮称）の開始）が進行中です。この春の北高入学者は定員 80 名のところ、昨年を大幅に下回り 30 名を割るのではないかと危惧されます。4月の総会、及び総会後の行事（p.8 参照）への出席を切に願っています。

＜ギャラリー夢ロード＞第25回展

後藤愛彦絵画展

11月4日（火）～16日（日）、標記の展示会を開催しました。今回は、展示に至るまでこれまでにないプロセスを辿りましたので、このことに少し触れておきます。

作品を出品していただいた平田健司氏とは2024年来、＜ギャラリー夢ロード＞来場者から＜アートの本棚＞利用者として交流があり、そのうち北九州を拠点に活動した画家後藤愛彦作品を収集されていることを知りました。そして昨春、作品を拝見する機会に恵まれ、その内容の深さ、豊かさに圧倒されました。ギャラリー企画委員で彫刻家の川原氏の同道も求め、展示会開催を依頼したところ、当初は固辞されていたものの、作品についての感想を述べ合うにつれて、後藤作品をより多くの人に知ってもらう意義を認められ開催が決定しました。夏から秋にかけて作品の選定、タイトル、技法、サイズの確認などを三者で行いました。こうして作品の裏面まで確認でき、その成立事情もかなりのことが判明しましたし、画家自筆の画題解説には複数の会員のお知恵も拝借しました。

平田氏は、11月8日（土）ギャラリー・トーク「後藤愛彦に魅せられて」（写真）で詳しく話されたほか、連日会場に見えて、来場者はもちろん多くの会員とも対話されました。



展示は、油彩、水彩、ガッシュ、デッサン等27点、それに画集、新聞記事等で構成しました。ギャラリー・トークでの平田氏の言葉「何故、私が後藤愛彦に魅了されたか？それは見飽きないことです。定型を持たず、絵が浮かび上がるように日々変化します。見るたびに新しい発見があります。汲めども、汲めども尽きません。そこには愛おしささえ感じます。」

ギャラリーではこれまで、＜アートの本棚＞所蔵の作品や、個々の作家からの借用作品を展示し、LPレコードジャケット展を除いては、コレクターの所蔵品を展示することはありませんでした。今回は、コレクションすることの意味合いを、作品を前に、しかも当の所蔵者から聞くことのできる稀有の機会となりました。これを可能にいただいた平田氏に改めて謝意を表したいと思います。（波多野）

後藤愛彦展を終えて

戦争でトラウマになりながら、自己の内（無意識）から生じてくる、やむにやまれぬ衝動に付き従いながら描き続けた「後藤愛彦」の絵画展を、戦後80年の年に催すことができてありがたく思います。＜ギャラリー＞は北高の通学路に面していて、入場した生徒たちに感想を聞いてみるとその中の一人から、わたしも文章に書いていた「寂寥感」という言葉を言われ驚きました。若い時に多くの刺激を受けることが如何に大切か痛切に感じます。夢ロードの皆さんはもちろん、地域の人たちや最近移住してきた方なども見えて、何かを求め熱心に話され、会場に詰めていた私にとって何とも幸せな時間を過ごすことができました。＜アートの本棚＞とともに、滝部（豊北町）にはいい出会いの場があるな、と隣町の住人として羨望にも似た感じも持ったことでした。（平田健司）

<ワークショップ>

高校生とデカルコマニーを作ろう

11月12日(水)

かねてよりギャラリー企画委員としてご協力いただいている美祢市在住の画家小田善郎さんの提案で、時間をかけた仕込みの行事となりました。小田氏は自らもデカルコマニーを取り入れた作品を制作されており、次のようなステップでワークショップが実現しました。

- ① 6月17日(火) 北高において総合文化部顧問教諭と総合文化部生徒に概要説明
- ② 9月12日(金) 放課後、北高教室において事前ワークショップ第1回
- ③ 9月19日(金) 同第2回



- ④ 総合文化部生徒が作成してくれた案内ポスターを豊北小学校、豊北中学校へ持参して児童生徒へのワークショップ参加依頼
- ⑤ 11月12日(水) <ギャラリー夢ロード>においてワークショップ「高校生と作るデカルコマニー」開催 出来上がったものの一部を切り取り小さな額縁に入れて完成です。
- ⑥ 1月27(火)～2月8日(日) 高校生のデカルコマニー作品の一部を「北高成果展2026」で展示

12日は、3家族から児童4名(3年生と5年生)、保護者2名、一般2名と総合文化部生徒8名の計16名が小田氏の指導の下デカルコマニーを作り、総合文化部生徒は、主に児童のサポート役をこなしてくれ、当日その様子は、テレビ取材されました(p5参照)。(波多野)

私たちのデカルコマニー体験

今回私たちは、小田善郎先生の事前指導の下、デカルコマニーの制作をしました。デカルコマニーとは、紙に絵の具を載せ、その上に別の紙を置くことで、左右対称の模様ができる転写方法の一つです。小さい頃に経験したことがある人もいると思います。

デカルコマニーをする時に注意することとして、水と絵の具の割合がありました。絵の具を多めにして、少しドロツとしたくらいでないと、きれいな模様にならないからです。他にも、紙のはがし方によって模様を変えられることや、絵具の付け方によって模様を変えることも学びました。

ワークショップ当日、小学生たちは、こちらが何か教えるより先に自分たちでどんどん進めていくので、少し驚きました。絵具の使い方や紙の重ね方など、使い方が一人ひとり違っていたのが面白くて、その想像力の豊かさに負けていられないなと思いました。小学生の親御さんもおられ、地域の人たちと交流できて楽しかったです。(白石蒼依 下関北高総合文化部部長)



＜音楽とお話のタベ＞

2025年11月7日（金）古屋優 ドヴォルザーク 交響曲第8番「イギリス」 ショパン 夜想曲 第1番 第2番

11月7日に開かれた古屋優氏提供のクラシックのレコードを聴く会は私にとっては思いがけない出会いとなりました。古屋さんから有名な交響曲第9番「新世界より」よりもドヴォルザークの音楽の神髄はこの第8番、との前触れがありました。聞き終わった後に、自分が深いところで元気な心になっているというか、心の深層の疲れや疑いを明確に一掃されたという感がありました。何かに行きづまったり、モヤモヤしたときは第8番を聴けばいい。

古屋さんが終わりにショパンのノクターンをおいてくださいました。文章をしたためるために言葉を捜すときショパンのノクターン21曲を聴けば大丈夫だと感謝しています。（岡崎）

11月14日（金）市倉栄治（フォーラム杜屋） シャンソン名曲集

シャンソンは初めての企画。周到な準備で全13曲の曲名、歌手名と顔写真、日本語歌詞付き6頁のプログラムが配られました。曲順にも工夫が見られ、先ずエディット・ピアフ「愛の賛歌」とイヴ・モンタン「枯葉」。次の女性歌手リュシエンヌ・ボワイエ、グロリア・ラッソ、ダミアの3人は玄人向け。異国の魂で括るエンリコ・マシアス（アルジェリア生れ）とシャルル・アズナブール（アルメニア系）の後、パリにちなむ3曲。最後にアンドレ・クラヴォー、アダモ、ピアフ「バラ色の人生」で締め。シルヴィ・ヴァルタンなどのフレンチポップスではない、オーソドックスなシャンソン——。次回？シャルル・トレネ、ジョルジュ・ブラッサンス、レオ・フェレなども聴きたいと思いました。（波多野）

映像資料で学ぶ会 第1～3回

今年度より、新しく＜アートの本棚＞で「映像資料で学ぶ会」が始まりました。6月22日の第1回では、会の内容について意見を出し合い、当面、資料はフランス映画から選ぶこと、映画を鑑賞するとともにフランス語シナリオなどを利用してフランス語の初歩を学ぶこと、3カ月に1回程度、原則日曜日に開催することなどが決まりました。その上で、＜アートの本棚＞所蔵のフランス映画DVD、VHSビデオテープ、シナリオ、上映された当時のパンフレットなどから次回の教材を決めました。

9月28日の第2回では、「海辺のポーリーヌ」（エリック・ロメール監督 1983年 DVD）を観賞しました。1月18日の第3回は、前回観た作品から出されていた宿題（仏文シナリオ冒頭シーンの和訳）について当該部分を再視聴して質疑応答を行った後、「勝手にしやがれ」（ジャン＝リュック・ゴダール監督 1959年製作 1960年公開 VHS）を観賞しました。2作ともヌーヴェル・ヴァーグ（新しい波）と呼ばれる監督の作品です。フランス映画は、フランス語独特の流れるような発音や自由と個人を尊重するフランス人の会話などから作られた世界が魅力です。まだ始まったばかり（参加者は5名）ですが、少しフランス文化に触れることができたような気がしています。（磯部）



読書会の意義とは？

～読書会「カフェ・リーブル」のこと4～

昨年11月末には民放で一部が紹介されたこともあり、すっかりお馴染みになった(?)この読書会。時には小学生の参加もあります。



おおまち ゆうじろう作・絵『うみがめマリンの大冒険』を紹介する中原さん(第11回)

第12回では「12」にちなんだ本を持ち寄ることに。特に印象的だったのは白岡氏が紹介した「浅間山荘事件」にまつわる数冊。連合赤軍の犠牲者は12人だったそう。毎度のことながら、1つのテーマにそって関連する本を次々と読み漁り、時には人に会いに行き深掘りする白岡氏の探求心に舌を巻く。他には「十二支」や「12星座」「十二ヵ月」がタイトルにつく本などが紹介された。

第13回は今年2月に行われ、通常通り参加者が自由に紹介する回となった。その中で興味深かったのは、本を通して社会問題に言及する場面が多かったこと。新型コロナウイルス感染症や、生成AI、近頃の読書・活字離れ、多様な教育の場の必要性など。生成AIの本を紹介した私としては、物事の二極化が進む中で、より人間力が問われる時代になると感じた。だからこそ、読書や自らの手で文字を書く行為、そしてそれを分かち合う時間の意義は、今後いっそう高まっていくのではないだろうか。(溝口あや)

読書週間<アートの本棚>北高展示

本年も北高図書委員の生徒が<アートの本棚>に来場して約50冊を選書し、読書週間中北高図書室で展示されました。今回生徒が選んだ本の中には、現代美術作家大竹伸朗『直島銭湯「I♥湯」』(作品図録 小型折本)、インドネシア語の『DORAEMON』、大阪在住のファンがまとめて寄贈されたファイル資料『池永正明投手の軌跡』などもあり、日頃高校図書室にない図書に触れる機会となったと思います。

図書館団体貸出サービスの開始

本年度より本会は下関市立図書館の「団体貸出」制度の登録団体となりました。ほぼ月に1回数十冊を借り受けて<アートの本棚>に置いて会員および近隣の方への貸し出しと返却受け取りの手続きを行っています。豊北図書館の立地が不便なことへの対応策の一つです。



<ギャラリー夢ロード><アートの本棚>の活動が紹介されました

9月末、総合文化部生徒が参加したデカルコマニー事前実習(p.3 参照)でTYS(テレビ山口)の取材があり、これを契機に<アートの本棚>の活動全般、読書会「カフェ・リーブル」の様子、インドネシア語図書の貸出や生徒による選書と北高図書室での図書展示、さらに<ギャラリー夢ロード>での後藤愛彦絵画展とワークショップ「高校生と作るデカルコマニー」などを約7分にまとめた映像「芸術でまちを元気に 通学路から広がる交流」が、11月28日夕刻の地域報道番組mixで放映されました。

＜ギャラリー夢ロード＞第26回展

北高成果展 2026

1月27日（火）～2月8日（日）、隔年開催で4回目の展示会を開きました。油絵、アクリル画等の平面作品、短編小説、俳句など文学作品は総合文化部生徒の作品、他に家庭基礎、保育基礎、フードデザイン等の選択科目で制作した小物等々を併せて110点が並びました。今回もオープン前日、総合文化部の生徒と顧問の先生とで展示作業が行われています。

30日（金）は、恒例となっている総合文化部生徒のギャラリー見学会——見学会と言いながら近年は生徒が自作の意図などを一般見学者の前に説明してくれます。この日は、事前に会場でギャラリー企画委員会もあり、来場された非会員の画家や彫刻家も交えた作品についての意見交換会の様相を呈し、夕刻の北高生による演奏を含め、充実した一日となりました。成果展に小説が出品されるのは珍しいことですが、今回、同じ生徒の手作り短編小説2篇が並び、そこにちりばめられた比喩表現の面白さ、これら2篇で文体を変えていることなどに感心した、といった声も聞かれました。今回展示された、学校行事、部活動等の記録集『あしかび』が、かつては生徒の文芸誌『葦（あしかび）』であったことが思い出されました。（波多野）



＜音楽とお話のタベ＞

2026年1月30日（金）白岡勝典

Jazz 名演聴き比べ♪～ビートルズとジャズ

ビートルズの代表曲は、あらゆるジャンルの音楽家にレパートリーとして取り上げられスタンダードとなっていますが、果たしてジャズとのマッチングは！？ということで、選曲された6曲に耳を傾けました。ポピュラー・オーケストラの演奏では、メロディ・ラインが美しい曲よりもリズムに変化がある曲の方が“おもしろい演奏”になる傾向がありますが、今回のジャズ演奏でもその傾向は一致しているように感じました。すなわち、「イエスタデイ」や「ミッシェル」よりも「ア・ハード・デイズ・ナイト」や「ルーシー・イン・ザ・スカイ・ウィズ・ダイヤモンド」の方が、私には楽しめて印象に残りました。市倉栄治（フォーラム杜屋プロジェクト）

2月6日（金）岸田海司（北高1年）

「テナーサックスソロ～A 列車で行こう他～」

楽しみにしていた岸田君のテナーサックス。吹奏楽部に所属しながら、サックス演奏家に個人レッスンも受けていると



いう。まるでアニメ「BLUE GIANT（ブルー・ジャイアント）」の世界です。満員御礼で多くの立ち見も出るなど、過去最高の50名を超える観客で、ギャラリーが熱気に包まれました。演奏は勿論ですが選曲と語りが秀逸で、ジャズのスタンダードだけでなく、幅広い層の観客が楽しめるように工夫されていました。アンコールを含め、最後は最も影響を受けた「BLUE GIANT」からの楽曲で締めるなど、驚くべきパフォーマンスでした。将来が楽しみです。（白岡）

県立高校再編、どうなる、どうする下関北高！

県立高校再編整備計画後期実施計画（素案：令和 9～15 年度）が発表され、10 月 24 日、下関市民会館での地域説明会に出席しました。それによると、今後 14 年間で山口県内の中学卒業生の数は 1 万 1 千人から 4 千人程度減少する見込みであり、これに対応して高校の再編統合等（例：豊浦高校と長府高校の統合、下関西高校と下関南高校の統合など）や学科再編等が提案されました。

下関北高は、美祢青嶺高校、高森高校とともに後者の対象となっており、「地域と連携した課題解決型学習等の探究活動などを通して、大学などへの進学や就職に向けた教育の充実を図るため、普通科を学科改編し、特色ある学科を設置」するとして、「**（仮称）未来デザイン科**」を令和 10 年度に設置するとされています。

具体策は今後検討していくとのこと、今後 2 年間でどういう形で議論を深め、特色ある学科をどう創りあげていくかは、明らかにされていません。計画素案には「**（仮称）未来デザイン科は、令和 4 年度より設置が可能となった普通科教育を主とする学科の名称**」と注記されるだけで詳しい説明はありません。

下関会場では、とくに再編統合につき意見が多数出て 30 分程度延長されましたが、県下 15 会場では何れも出席者は少数にとどまったようです。次代を担う子供たちの教育についてもっと目を向けて欲しいのですが、関心の低さにやりきれない思いでした。夢ロード会員からの説明会参加は 1 名だけでしたが、役員など少なくとも 3 名以上が本計画に対す

るパブリックコメントを提出しています。

下関北高は、1 学年定員 80 名のところ近年入学者は 40 名前後で推移していますが、このうち豊浦町及び旧市内からの通学生が約 60% を占めており、豊北中出身の生徒は近年大きく減少しています。

こうしたなか、下関西高併設中学校（令和 8 年度開校：定員 60 名→2 年後中高一貫校）は 121 名が受験し 60 名が合格（1 月 6 日発表）しました。ちなみに、豊北中学校開設以来の生徒数は平成 18 年度 311 名から各年ほぼ漸減し、令和 7 年度には 98 名にまで落ち込んでいます。

さて、皆さん高校が無くなると豊北町はどうなるかよく考えて見て下さい。子供達が教育を受ける選択肢が減り、又、学校は遠くなり保護者の負担は確実に増えます。近年、地方に魅力を感じ移住者は増えていますが、高校のない町に果たして若者世代が定住しますか。そこに教育の場があるか、親にとって重要な判断基準になります。

若者の声がしない町に未来はありません、活気も生まれようがありません、当然次世代への継承はままなりません。若者の少ない町の経済活動は一段と低迷し、衰退の一途をたどります。この町の自然と景観を愛でに多くの交流客が県内外から訪れるようになりました。幸い、この町には豊かな資源がたくさん残されています。魅力ある資源を活用し若者や高齢者が住み続けられる心豊かな町にしようではありませんか。

このたびの下関北高の学科改編を自分事として捉えていただき、より良き方策と一緒に考えて見ませんか。（永富輝久）

2026 年度 総会のご案内

2026 年度総会および総会後の行事を下記の要領で開催いたします。

つきましては、本会報第 18 号同封の出欠はがきを 4 月 20 日(月)必着でご返送願います。

今回の総会は、2026 年度末をもって本会の解散を決定する重要かつ最後の総会となりますので、是非多くの会員が参加されるようご案内いたします。

記

日時：2026 年 4 月 25 日(土)

会場：滝部公民館

■総会

14:00～15:15 (2F 和室)

■総会後行事

15:30～17:00 (講義室)

“未来デザイン科”(仮称)とは？
～下関北高の学科再編を考える～

この度の県立高校再編整備計画によれば、2028 年度から下関北高の普通科は、“未来デザイン科”(仮称)として再編される予定です。昨年末、地域説明会やパブリックコメントの募集などがありましたが、「普通教育を主とする学科」とするだけで計画の詳細は明確に示されていません。名称だけの変更に終わらず真に魅力ある学科になるのか、どのような変化が期待できるのか、他県の事例も踏まえて検討し、意見をあげていきましょう。

主催：北高夢ロード実行委員会

共催：下関北高等学校同窓会

夢ロード会員、同窓会員の他、多くの方々のご参加をお待ちしています。

事前申込み不要

問い合わせ：080-7749-7756 (波多野)

会員の表彰

2 月 28 日(土)、下関北高において、2025 年末まで 14 年間、通学路における雨傘貸出サービスに携わった恒富英雄、藤田至両氏に感謝状が授与されました。

なお、このサービスは、本会によって継続して行われています。

本会協力企画「朗読劇 角島灯台物語」参加者募集

ご希望の方は、下記宛ご連絡ください。

担当：藤岡達雄 (080-5618-9109)

北高へふるさと納税で応援を

【ふるさと納税】システムを利用、下関北高の教育活動充実を支援しましょう。詳細は県外在住会員宛今号同封の『山口県ふるさと納税の募集』の《払い込み取扱票》通信欄に下関北高校宛を記入、振込手続後、確定申告又は特例申請で税控除されます。

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a10700/furusato/top.html>

問合せ先：北高夢ロード実行委員会 城石郁裕

Email: japolo1329ik@gmail.com

2026 年度会費の納入について

今回で最後の会費となります。本誌同封の振替用紙でお振り込み願います。

北高夢ロード通信 第18号(年2回刊)

2026 年 3 月 20 日発行

編集：会報編集委員会(戸田・穂枝・白岡・村上)

発行：北高夢ロード実行委員会

〒759-5511

山口県下関市豊北町滝部 218-5

Tel: 083-782-0084

ホームページ: <http://yumeroad.org>

Email: kitakoyumeroad@gmail.com